

モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団ニュースレター

2021年4月28日

日米首脳会談共同声明:マンズフィールド財団の「マンズフィールド・フェロースhip・プログラム」が言及される

4月16日(米国時間)、ワシントンDCで行われた菅首相・バイデン大統領による首脳会談後に発表された共同声明で、日米同盟を支える二つの社会の間の架け橋の例としてモーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団が実施する「[マンズフィールド・フェロースhip・プログラム](#)」が言及された。詳しくは以下リンクを参照。

ホワイトハウス公式 YouTube (動画):[President Biden Participates in a Press Conference with H.E. Suga Yoshihide, Prime Minister of Japan](#)

以下、外務省ウェブサイト

[日米首脳共同声明\(英文/PDF\)](#)

[日米首脳共同声明\(仮訳/PDF\)](#)

別添文書(英文/PDF):[U.S.-Japan Competitiveness and Resilience \(CoRe\) Partnership](#)

別添文書(仮訳/PDF):[日米競争力・強靱性\(コア\)パートナーシップ](#)

日米首脳会談:バイデン大統領が菅首相に故マンズフィールド大使のレガシーについて言及

You can read this article in English [here](#).

President Biden, Prime Minister Suga and Discuss Mike Mansfield's Legacy

4月16日、菅義偉首相がバイデン米国大統領との首脳会談のためワシントンDCを訪問した。会談では、安全保障、貿易、気候変動、人的交流など日米関係における様々な問題について議論された。

バイデン大統領は、上院議員に就任した直後からの良き師であったモンタナ州選出の[マイク・マンズフィールド](#)上院多数党院内総務(当時)との長年にわたる友情に言及した。マンズフィールド氏はその後、自身の専門でもある米国・アジア関係への関心を発展する形で最も在任期間が長い駐日米国大使(1977年~1988年)を歴任。

菅首相との会談後に行われた共同記者会見で、バイデン大統領は「友情と繋がりという個人的絆は、日米同盟を今後何十年にもわたり強く活気に満ちたものにするだろう。」と述べ、さらに「特に本日、日米間の人的絆を促進する[マンズフィールド・フェロースhip・プログラム](#)の再開に合意したことを誇りに思う。」と語った。また「マイク・マンズフィールド大使からは敬愛される駐日大使就任以前、私が上院議員就任直後妻と娘を亡くした際には、よき理解者としてまたその後の私の上院

議員時代にも、説明し尽くせない程支援を頂いた。私は、彼のレガシーが両国の緊密かつ末永く続くパートナーシップを支え、今なお尊重され続けていることを誇りに思う。」と述べた。

1994年に米国議会によって設立されたマンズフィールド・フェローシップ・プログラムは、日本語学習と日本での政府研修の機会を通して、日本の行政システムに詳しい知日派の米国の中堅若手官僚を養成するプログラムで、過去25年間に派遣された150人以上のフェローは、日本での研修を通して日本におけるネットワークを拡げ、日米関係における政治的、経済的、戦略的理解を深めてきた。以下の知識を含む日本への実際的理解を深めたフェローは出身機関に帰任後、日本関係のプログラムや政策関連の業務を円滑に進めることが期待される。

- 日本語
- 日本政府の政策(個々のフェローの専門分野における課題を日本政府がどのように取り組んでいるかなど)
- 日本政府の政策決定プロセス(個々のフェローの日本側のカウンターパートである省庁がどのように組織され、政策決定を行っているかなど)
- 日本社会・文化一般

同窓フェローは帰国後、日本関係の幅広い分野において責任ある業務を任せられ、日本関連の案件について所属機関で助言を行い、日本に関わる問題についての迅速な解決に貢献している。マンズフィールド・フェローシップ・プログラムは、コロナウイルス感染症の世界的パンデミックにより、2020年3月に活動を一時休止しているものの、マンズフィールド財団は、プログラム設立25周年にあたる[第25期マンズフィールドフェロー](#)の派遣によって、プログラムが再開されることを期待している。

マンズフィールド・フェローシップ・プログラムは、米国国務省教育文化局の交付を受け、モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団が運営を行っている。

(参考)マンズフィールド・フェローシップ・プログラム誕生秘話エッセイ

1990年代、日米貿易摩擦の渦中に誕生した「マンズフィールド・フェローシップ・プログラム」。その生みの親ともいえる林芳正参議院議員が創設時の思い出を綴った寄稿エッセイ(2013年)を、以下よりお読みいただけます。

[林芳正議員エッセイ「マンズフィールド・フェローシップ・プログラムの思い出」](#)

出典:「[ユニークな経験・視点 マンズフィールドフェローと彼らが内側から見た日米関係](#)」(p.12-p.14、2013年、マンズフィールド財団発行)

[Honorable Yashimasa Hayashi's essay "Reflections on Mike Mansfield Foundation Fellowship Program"](#)

Source: "[Unique Experiences, Unique Perspectives – Mansfield Fellows and Their Insights on U.S.-Japan Relations](#)"(p.12-p.14, 2013, Maureen and Mike Mansfield Foundation)

【訃報】マンスフィールド財団追悼メッセージ： ウォルター・モンデール氏逝去



2021年4月19日、マンスフィールド財団の理事を2004年から務め(2008年からは理事会会長、2014年からは国際・アドバイザー・ボード議長)、カーター政権時に副大統領(1977-1981)、また駐日米国大使(1993-1996)を務めたウォルター・F・モンデール氏が93歳で逝去した報に接し、マンスフィールド財団は追悼メッセージを公開した。

以下、マンスフィールド財団の追悼メッセージ
([英文](#))/([和文](#) PDF)

在米日本国大使館支援ウェビナー「人道支援・災害救助(HA/DR)：日米協力の課題と機会」を実施

3月29日(米国時間)、マンスフィールド財団は「世界における日米協力：2020年とその先」ウェビナー・シリーズの最終回となるパネルディスカッション「人道支援・災害救助(HA/DR)：日米協力の課題と機会」をオンラインで実施した。東日本大震災10周年の今年、日米が共同で人道支援と災害救助に取り組んだ「トモダチ作戦」の10周年でもあることから、本イベントでは、被災後にトモダチ作戦に直接携わったマイケル・ルー・デッカー米陸軍中佐とベロニカ・ケネディ米海軍少佐、地域安全保障専門家のアンドリュー・オロス博士(ワシントン・カレッジ教授)を招き、人道支援・災害救助(HA/DR)の分野で日米がどのように協働するかについて議論した。

なお、デッカー中佐は、マンスフィールド財団が主催する[マンスフィールド・フェロースHIP・プログラム](#)の第22期フェロー(2017-2018年)、ケネディ少佐は第25期フェロー(2021-2022年研修予定)。

本イベントは以下URLより動画で視聴できます。

マンスフィールド財団公式 YouTube

Humanitarian Assistance and Disaster Relief: Challenges and Opportunities for U.S.-Japan Cooperation

<https://www.youtube.com/watch?v=K9DBsdozmH4>

大使経験者らによるラウンドテーブル「インド太平洋から見たアメリカの民主主義」を開催

4月16日(日本時間)、マンスフィールド財団は、大使経験者らによるラウンドテーブル「インド太平洋から見たアメリカの民主主義」を開催した。本イベントでは、パネリストに佐々江賢一郎元駐

米日本大使、チャン・ハン・チー元駐米シンガポール大使、ノンヌー・ペチャラタナ元駐豪・駐独タイ大使を招き、1月初めに起こった連邦議会議事堂襲撃事件やバイデン政権が民主的価値を再び外交の中心核に置いたことなどからみた米国の民主主義や政治の有様、またアジアにおける価値観外交に基づく米国の役割などについて、それぞれが見解を述べた。

第25期マンスフィールドフェローのための訪日前オンライン・セミナー:第5回・第6回実施

3月16日と4月19日(米国時間)、マンスフィールド財団は、[マンスフィールド・フェローシップ・プログラム](#)第25期マンスフィールドフェローにそれぞれ第4回及び第5回目の訪日前オンライン・セミナーを実施した。

第4回は、日米関係についてマーク・ナッパ米国国務次官補代理(日本・韓国担当)※を講師に招いて行われた。セミナーは、ナッパ氏が訪日中のアントニー・ブリンケン国務長官とロイド・オースティン国防長官の随行中に行われたため、フェローはバイデン政権下で米国と日本及びアジア関係に携わる政府高官から最新の知見を聞く貴重な機会を得た。

(※ナッパ氏は、最近バイデン大統領により駐ベトナム大使に指名されている。)

第5回は、2011年の東日本大震災時に駐日米国大使館首席公使を務めていたジェームス・ズムワルト元大使を講師に招き、震災発生時の米国大使館の米国人保護対応や日本への支援、その際に得られた教訓などについて、まさに前線での貴重な経験談をフェローに語って頂いた。

なお、3.11における米国の緊急対応ミッションには、第2期マンスフィールドフェローの[アルフレッド・ナカソマ](#)氏が米国国際開発援助庁(USAID)職員として参加した。また震災直後には、米国原子力規制委員会(NRC)リスク分析官のトニー・ナカニシ氏も日本に派遣された。ナカニシ氏はその後第23期マンスフィールドフェローとして2019年に来日した。

<財団関連の記事や報道のご紹介>

The Diplomat の日米首脳会談関連の記事にマンスフィールド財団のプログラムが言及
オンライン国際ニュース雑誌の The Diplomat に、先日行われた日米首脳会談の解説記事(2021年4月21日、スコット・ハロルド※)の中で、弊財団のマンスフィールド・フェローシップ・プログラムが言及されています。

[The Diplomat: Joe-Yoshi' Spirit Buys Japan-US Alliance in Turbulent Seas](#)

※ハロルド氏は米シンクタンク、ランド研究所の上級政治アナリストで、またマンスフィールド財団主催[日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム](#)の第5期参加者。

<求人情報>

プログラム・オフィサー募集(マンズフィールド財団ワシントン DC 事務所)

マンズフィールド財団ワシントン DC 事務所では、プログラム・オフィサーを募集中(6月1日～、応募締め切り・5月5日)。職務内容は[こちら\(英語\)](#)を参照、求人情報の詳細は、上記ウェブページのメールアドレス(hr@mansfieldfdn.org)に照会ください。

<マンズフィールド・フェロースHIP・プログラム同窓生近況報告>

[English follows Japanese](#)

●ベンジャミン・フォスター(Benjamin Foster) 第21期マンズフィールドフェロー(2016年-2017年)

在日米国大使館 エネルギー首席担当官・エネルギー省 日本事務所代表



2017年夏に1年間のマンズフィールド・フェロースHIPが終了後、ワシントンDCに戻り、出身機関である米国連邦エネルギー規制委員会に帰任しました。そこで私は通常の業務に加え、米国の電力卸売市場やエネルギー政策に関心のある海外の政府職員や研究者との連絡調整役の立場を確立しました。こうした交流に多大なる価値を見出し、またマンズフィールドフェローとして日本のカンターパートの方々と築いた関係をより深めたいという気持ちから、現在のポジションである在日米国大使館エネルギー首席担当官及びエネルギー省日本事務所代表に応募するチャンスに飛び付き

ました。

エネルギー首席担当官として、エネルギーや科学、核の安全保障及び非拡散などの分野における日米二か国関係の全ての任務をカバーしています。この幅広い権限によって、マンズフィールド・フェロースHIP時代の日本人の同僚—多くは経済産業省の資源エネルギー庁の同僚ですが—と再び繋がることだけでなく、日本の他の省庁や産業団体、市民団体、科学研究機関などの活動についてより詳しく学ぶ機会を得ています。日本のエネルギー政策や安全保障の懸念への理解、また日本の省庁組織の事情に多少通じているといったマンズフィールドフェローとして得た経験は、現在の仕事に大変役立っています。そしてコロナウィルス感染で対面による交流が制限される中でも、短期間で日本での生活に再び馴染むことができています。今の状況がよくなったら、具体的には、マンズフィールドフェロー時代に見つけた美味しいレストランにまた食べに行きたいと思っています。

Benjamin Foster, MFP 21 (2016–2017)

Energy Attaché and Director, Department of Energy Japan Office

After finishing my Mansfield Fellowship year in the summer of 2017, I returned to the Federal Energy Regulatory Commission in Washington, D.C., where – in addition to my regular duties – I carved out a role as a liaison for foreign officials and researchers interested in learning about U.S. wholesale electricity markets and energy policy. Finding a lot of value in these exchanges and wanting to deepen the relationships I formed with Japanese counterparts as a Mansfield Fellow, I jumped at the chance to apply for my current position as Energy Attaché at the U.S. Embassy in Tokyo and Director of the Department of Energy’s Japan office.

As the energy attaché, my portfolio covers all aspects of the U.S.–Japan bilateral relationship in energy, science, and nuclear security and non-proliferation. This broad remit offers the opportunity to not only reconnect with colleagues from my Mansfield Fellowship days – many in METI’s Agency for Natural Resources and Energy – but also to learn more about the activities of other government agencies, industry organizations, civil society groups, and scientific research organizations. My experience as a Mansfield Fellow has served me well in this new job: I come into it with an understanding of Japan’s energy policy and security concerns, and a feel for the structure of Japanese government agencies. This has enabled me to quickly get up to speed despite limits on face-to-face interactions during the pandemic. More concretely – once the situation improves, I want to eat again at all the tasty restaurants I remember from my time here as a Mansfield Fellow!

[モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 日本語ホームページ](#)



 [Email](#)

 [Support](#)